

# 図画工作科学習指導略案

4年2組 36名 指導者 下之菌 崇

本授業では、以下の検証を行うものである。

形や色などの感じを基にイメージを広げ、整理し、再構築するために「見える図」を用いることは、児童が新たな表現手段に気付いたり、よりよい表現を求める意欲を育てたりする手段として有効であったか。

## 1 題材 絵の具でゆめもよう（絵に表す）

## 2 指導計画（総時数6時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
思いをもつ	1 作品例を見て、製作への思いをふくらませる。 2 学習のめあてを捉える。 いろいろな方法でできた紙の模様を組み合わせて夢の世界をつくろう。 3 模様当てクイズや作品例を見て、すてきな模様の紙をつくる方法を考えたり、お互いに意見を出し合ったりして、活動の見通しをもつ。 【関：模様づくりやコラージュに興味をもって取り組もうとしている。】	0.5
ふ思いくらえます	4 身近な材料や用具の使い方を工夫して、いろいろな方法で紙に模様をつける。 【想：模様づくりの材料や技法から試したいことを思い付いたり、できた模様からあらわしたいことを考えたりしている。】 【技：自分のお気に入りの表現を生み出そうと材料や用具の使い方を工夫している。】	2.5
自他のよさに表現する／思いを表現する／気付く	5 すてきな模様のよさや美しさを感じとり発想をふくらませる。 <u>ギャラリーウォーク</u> 【想：色や模様の感じを基に、表したいことを考えようとしている。】 【技：色や模様の特徴を生かしながらコラージュに表している。】 【鑑：自分や友達作品のよさや美しさを感じ取っている。】	1 (本時)
	6 多彩な紙を使い、その模様や色から発想した絵をコラージュで表現していく。 【関：色や模様の感じを基に、表したいことを考えようとしている。】 【技：色や模様の特徴を生かしながらコラージュに表している。】 7 表現の途中で互いの作品を見せ合いながら製作を行い、自分の表現に生かす。 【鑑：自分や友達作品を見せ合い、よさを感じている。】	1.5
も思新たな	8 作品カードを書き、互いの工夫やよさを話し合う。 【鑑：互いの作品を見せ合いながら、表したかったことについて話し合っている。】	0.5

## 3 本時（4／6）

### (1) 目標

すてきな模様のよさや美しさ、違いを感じとり、発想をふくらませることができるようにする。

### (2) 評価規準

- 色や模様の感じを基に表したいことを考えている。 【発想や構想の能力】
- 色や模様の特徴を生かしながらコラージュに表している。 【想像的な技能】
- 色や模様のよさや違いを感じ取り、意味や価値に気付くことができる。 【鑑賞の能力】

### (3) 指導に当たって

本題材は、絵の具を使ったいろいろな技法で模様を付けた紙を使い、コラージュ（貼り絵）の技法を用いて絵に表す学習である。

「思いをもつ」過程では、前時に行った絵の具の模様づくりを思い出し、技法や材料などにも触れながら本時の活動への意欲を高める。

「思いをふくらます」過程では、コラージュ作品の製作のために、模様がついた紙からイメージを広げ、それぞれの考えを「見える図」を使って視覚化させる。また、グループで意見を交流する時間を設け、自分の思いを表した「見える図」の中に友達の意見を付け加えてみることで自分では気付けなかったすてきな模様の新たなよさにも気付けるようにしたい。

「思いを表現する／自他のよさに気付く」過程では、「見える図」を用いて、グループで構想を練りながら一つの作品を完成させることによって、いろいろな工夫の仕方を学べるようにする。また、各グループの作品を鑑賞する時間を設け、友達や自分のよさを感じ、新しい考えや表現方法を取り入れたり、自分の考えに自信をもったりすることにつながるようにする。

「新たな思いをもつ」過程では、本時の学習を振り返りながら、自分が製作したすてきな模様を基にイメージをふくらませることで、今後の活動の見通しをもったり、製作活動への意欲を高めたりすることができるようにしていく。

(4) 本時の展開

□ 重点化するスキル [ ] 子どもの意識 ○ 指導の手立て ※ 評価

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
思いをもつ	7	1 前時に製作した「すてきな模様」を振り返り、思いを広げるためのポイントを全員で確認する。 [ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 形や色や大きさに注目するといいいね。</li> <li>・ 触った感じを考えるといいよ。</li> <li>・ 気持ちを考えてもいいと思うな。</li> </ul> ] 2 本時の学習の流れを知り、学習のめあてをたてる。 3 すてきな模様を見て、気が付いたことや発想したことを「見える図」に書き込む。 □ 多面的に見る	○ 前時に製作した様々な種類のすてきな模様を参考作品とともに掲示し、やってみたいという思いを高める。 うにする。 ○ 自分の思いを広げるキーワードを子どもの発表を基に板書し、めあてにつなげる。 ○ 題材のめあてや学習計画を確認し、本時で行う活動を黒板に掲示することで子どもが見通しをもって活動ができるようにする。
思いをふくらます  思いを表現する／自他のよさに気付く	30	□ みんなのアイデアを生かして「すてきなもよう」を進化させよう。 [ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この模様は堅そうで岩みたい。</li> <li>・ この色は触ったら冷たそうだな。</li> <li>・ なんだか楽しい気持ちになる色と模様だよ。</li> <li>・ 小さく丸く切れば泡に見えるかも。</li> </ul> ] 4 「見える図」を鑑賞し合い、お互いの工夫している点や、参考にした点を発表し合う。 5 お互いの意見を交流させながら、グループでコラージュ作品を製作する。 □ 関連付ける [ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この紙は□□くんの意見を使おう。</li> <li>・ この紙は△△さんが言っていたみたいに見えるからここで使おう。</li> <li>・ 違う模様の紙を組み合わせると面白いよ。</li> <li>・ 切り方を変えると違うものに見えてくるね。</li> </ul> ] 6 各グループの作品を鑑賞し合い、発見した面白さやすばらしさを発表し合う。	○ 形や色、感じから発想したことを「見える図」で視覚化することによって、イメージを明確化したり、グループで確認したりできるようにする。 ○ 新しく加わった考えや思いは、青色で書き込ませ、考えの広がりが見えるようになる。 ※ 色や模様の感じを基に表したいことを考えている。(行動観察・ワークシート) ※ 自他の表現のよさを感じ取り、それぞれの意味や価値に気付くことができる。 (話し合い・活動) ○ 積極的に想像を広げている子どもには、どのような工夫をしているのか聞いて、発表できるように声掛けしておく。 ○ 活動が停滞している子どもには「見える図」を確認しながらイメージを広げられるような言葉掛けをする。 ○ グループで交流させることで一つの模様からたくさんのが想像できることを意識させ、またグループ製作を行うことで個人製作への見通しをもたせる。 ○ ギャラリーウォークを行い、他のグループの作品のよさに触れ、新しい考えや表現方法を取り入れたり、自分の考えに自信をもったりすることにつながるようにする。
新たな思いをもつ	8	7 前時に自分が製作したすてきな模様を見ながら表したいイメージをふくらませる。 □ 色やもようをよく見て考えたり、組み合わせを工夫したりするといろいろなものに見えてきておもしろいよ。 8 次時の活動を確認して、自分の工夫したいことを考え、製作への新たな思いをもつ。	○ 自分のすてきな模様を見ながら本時の学習を振り返ることで、イメージをふくらませ個人製作への意欲を高める。 ○ すてきな模様を進化させるポイントについて子どもの言葉でまとめていく。 ○ 本時の学習を振り返り、次時の活動を伝えることで、製作への意欲を高める。

図画工作